



ミュンヘン便り ～ Artikel über Artikel 2 (冠詞についての記事 2) ～

さて、ドイツ語について、今回は前回に続く2回目です。

ドイツ語を使った子供の遊びで「Mein Teekesselchen」というゲームがあります。直訳すると、「私の小さなやかん」。これは二人一組となり、二組、計4人で遊びます。A1、A2がA組、B1、B2がB組を作り、A1、A2のそれぞれが、全く同音で2つの意味D1、D2を持つ単語Wについて説明します。この時、A1は意味D1についてのみ説明し、A2は意味D2について説明します。A1とA2とは、交互に説明します。B1、B2はそれを聞き、単語Wを当ててののです。例えばこんな具合です。

A1：「私の小さなやかんには種がある」

A2：「私の小さなやかんは、光る」

A1：「私の小さなやかんは、ケーキやジュースになる」

A2：「私の小さなやかんは、時々交換が必要」

A1：「私の小さなやかんは、黄色い」

B1、B2：「わかった。Birnel!」(ビルネ)

答えはdie Birne (デイ ビルネ、女性名詞)、梨という意味と電球という意味とを持ちます。この場合、いずれの意味であっても女性名詞die Birneです。今度はB組の番です。

B1：「私の小さなやかんは、音楽家」

B2：「私の小さなやかんでは、魚が泳ぐ」

B1：「私の小さなやかんは、ドイツ人」

B2：「私の小さなやかんは、自然の中にある。。。わかった？」

A1、A2：「わからない!もっと!」

B1：「私の小さなやかんは、作曲家」

B2：「私の小さなやかんは、水が流れるところ。」

A1、A2：「Bach!」(バッハ)

答えは、der Bach (デア バッハ、男性名詞)。音楽家のバッハと、小川という意味のバッハとは、発音が同じです。音楽家のバッハの名前は、日本風に言えば小川さんになるのです。

その他の例としては、der Flügel (フリュゲル、男性名詞)はグランドピアノと翼、die Bank (バンク、女性名詞)は銀行とベンチ、der Hahn (ハーン、男性名詞)は雄鶏と蛇口、本記事のタイトルに使っているder Artikel (アーティケル、男性名詞)は冠詞と記事、という異なる意味を持ちます。時には性によって意味が変わる単語もあります。Kiefer (キーファー)は、男性名詞の場合は顔の一部の「あご」、女性名詞の場合は「松」の意味になります。

このゲームを日本語で実行すると、どんな単語を使えるでしょうか。名詞に限定すると、例えば：

街灯・外灯・外套・街頭

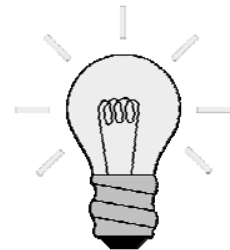
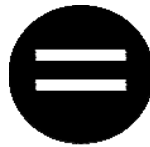
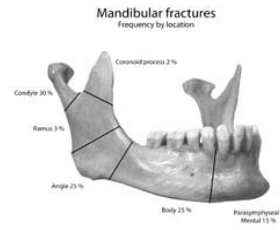
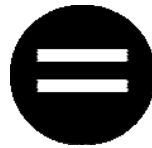
柿・牡蠣・夏季・火器・花器

冠詞・監視・漢詩・鉗子

紙・髪・神・上

歯・刃・葉

尼・海女・亜麻



ドイツ語では同音異義語の表が作られていますが、日本語にはそんな表はありませんね。ということは、ドイツ語には表にできるほどの数しか同音異義語がなく、それでこの「小さなやかん」のようなゲームがあるのかもしれませんが。一方、日本語には同音異義語が3つ以上ある場合も多く、毎日の生活の中でも前後の脈略によって単語の意味を理解するのがごく自然なので、この「小さなやかん」のようなゲームはないのかもしれませんが。ないですよ？

ドイツ語の同音異義語の表の一例は、例えば以下のサイトで見ることができます。

<http://www.singenundspielen.de/id314.htm>

筆者紹介

稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、GIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス) 設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。